

【 第16利丸（としまる） 】

おしかホエールランドに展示されている「第16利丸（としまる）」です。

昭和33年に大洋漁業(株)の大型高速捕鯨船の1番船として建造された第16利丸は、昭和62年に最後の操業を終えました。

その後石巻港で展示船として改修されました。〈案内板から〉

(2009年5月24日訪問)

- [「日本の風景」ホーム](#)
- [宮城県](#)
- 現在のページ



操業当時の第16利丸(としまる)
＜現地にあった案内板＞



遠景、正面からの画像。

昭和33年に大洋漁業株式会社の大型高速捕鯨船の1番船として建造。
初代砲手は「日本一の砲手」と言われた「泉井守一」氏。

「利丸」の名は、大洋漁業株式会社が社運をかけて臨んだ南水洋捕鯨(昭和11年)で、南水洋を前にオーストラリアのフリーマントル港で不慮の最後となった船団長「志野徳助」氏に代わり、船団長を務めた「中部利三郎」氏の名前から命名。

船 歴

昭和33年～51年(大洋漁業 株式会社)
南水洋捕鯨 (操業18回) 第13次南水洋捕鯨 (昭和33年～34年) ～第30次南水洋捕鯨 (昭和50年～51年)
北 洋 捕 鯨 (操業13回) 第9次北洋捕鯨 (昭和35年) ～第24次北洋捕鯨 (昭和50年)
サウス・ジョージア島捕鯨 (操業1回) 第1次 (昭和38年～39年)
昭和51年～57年(日本共同捕鯨 株式会社)
南水洋2回、南太平洋西部海域の試験操業で活躍
昭和57年～62年(日本捕鯨 株式会社)
鮎川を主とする日本沿岸捕鯨の操業に参加するなど、優秀な捕獲成績を上げる
昭和62年
鮎川沖での操業を最後に、同年12月、鮎川港を後に塩釜港で展示船として改修

参考資料：大洋漁業・捕鯨事業の歴史、大洋漁業船会、大洋漁業80年史

第16利丸の船歴など。〈案内板〉



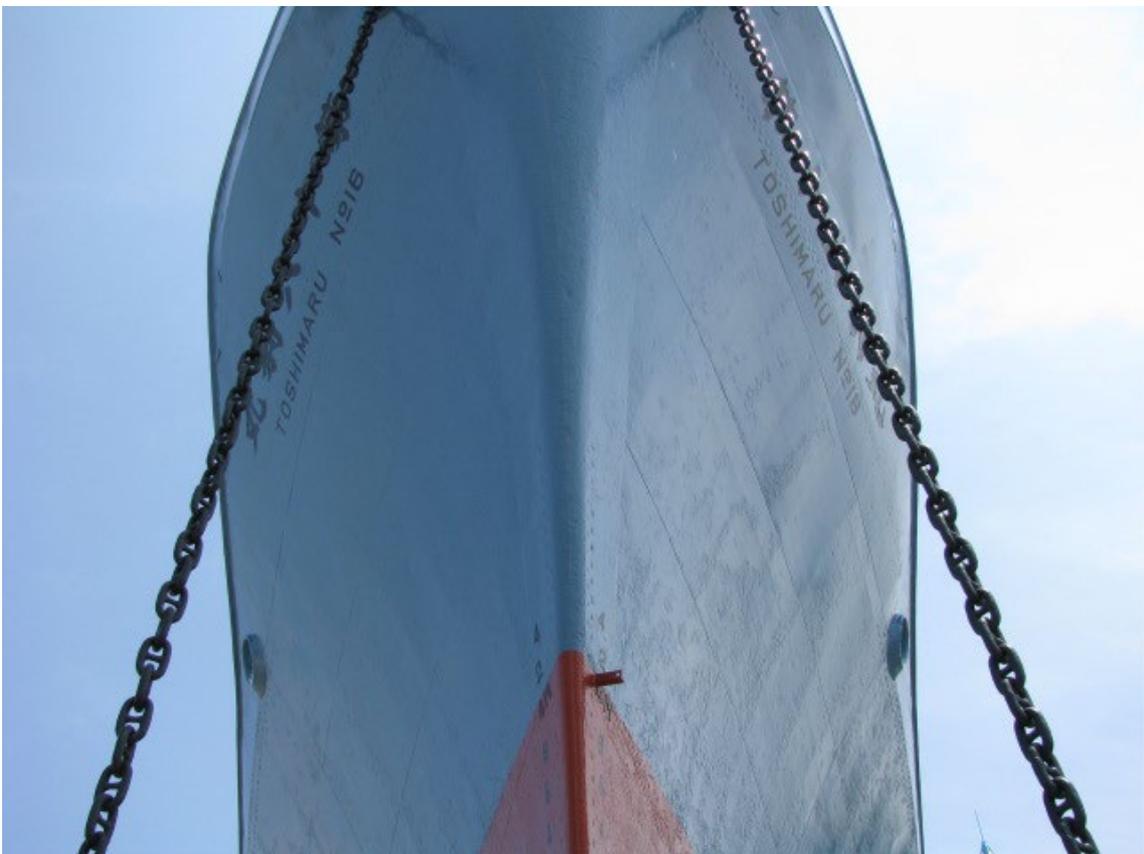
右舷側



船首側



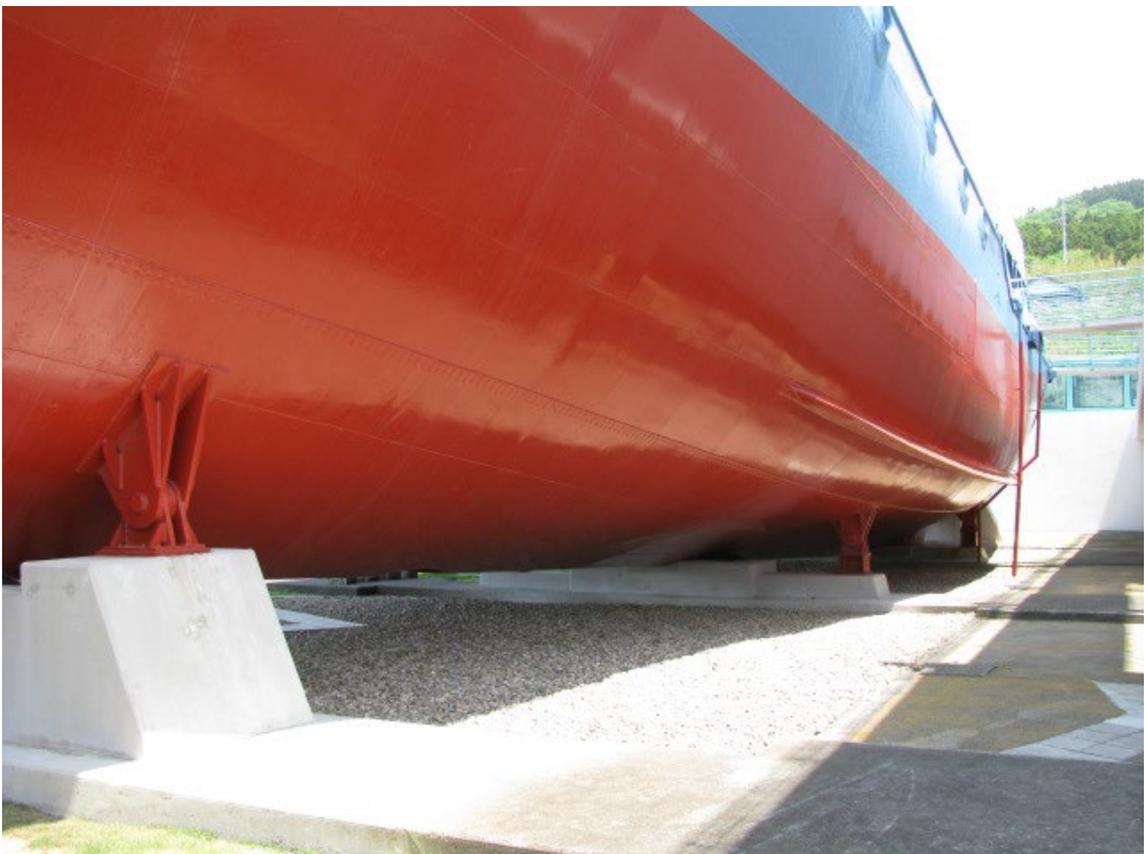
船体正面



船首部



船首左舷側



船側左舷側



船底左舷側



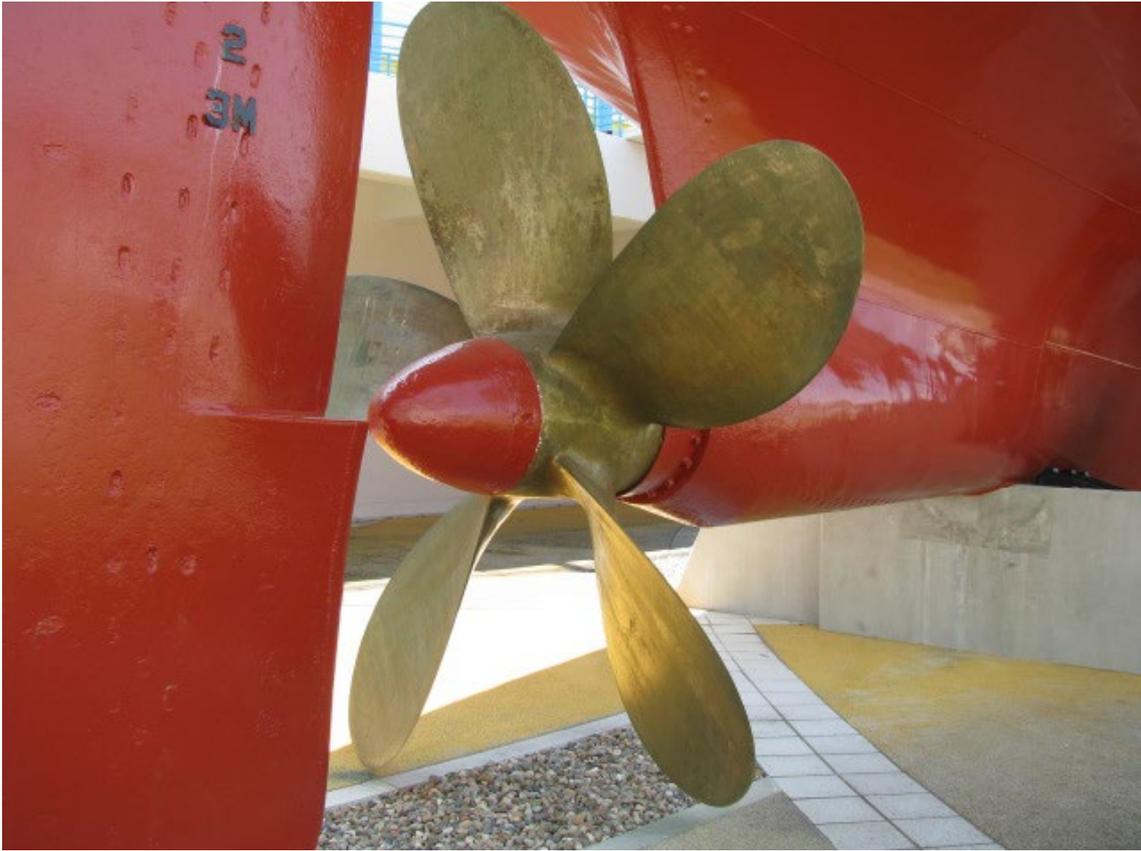
船底右舷側



右舷側船尾



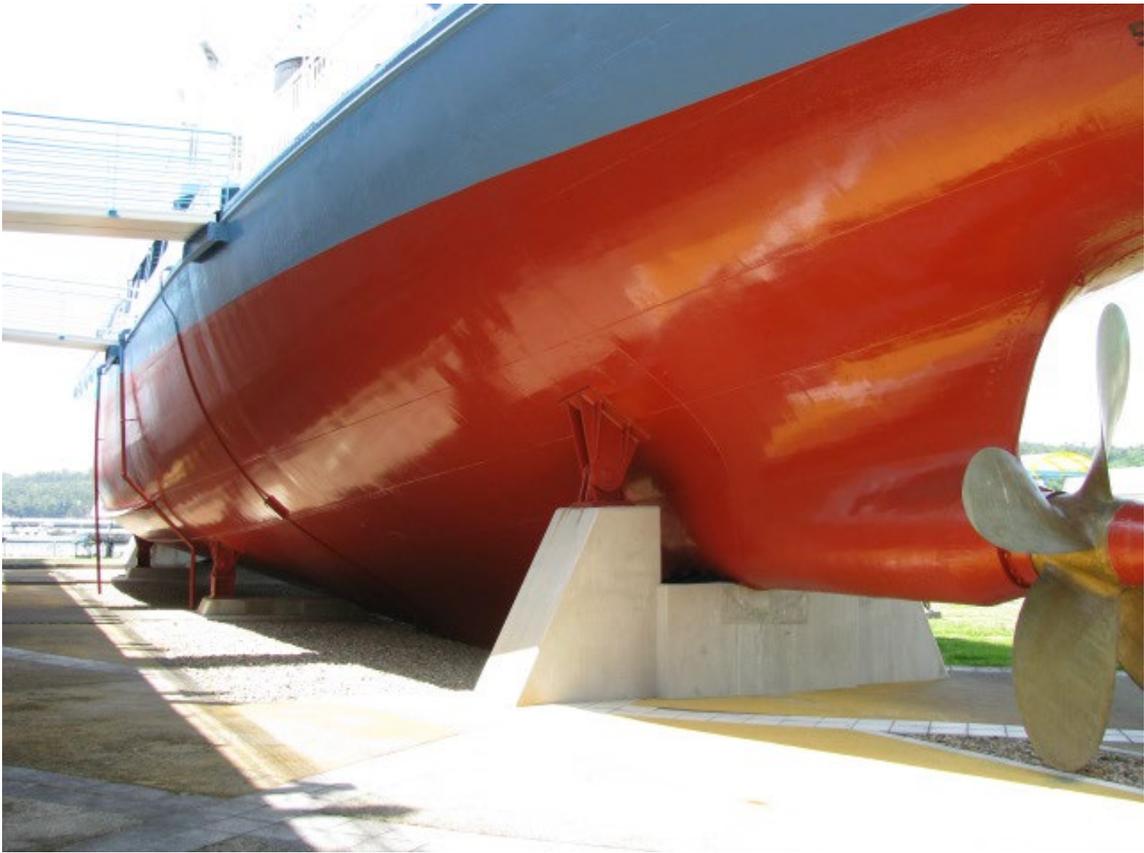
スクリュープロペラ



後ろ側からのスクリュープロペラ



船尾左舷側



船尾から左舷側。



船尾。



おしかホエールランド入口付近からの画像。



おしかホエールランドの2Fから写した左舷船体



おしかホエールランドの2Fから写した船尾。



おしかホエールランドの2Fから写した左舷側。



おしかホエールランドの2Fから写した左舷側船体上部。



おしかホエールランドの2Fから写した船尾。



船橋



海図室



通信室



機関室